

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 6月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	4792700017
法人名	医療法人 愛和会
事業所名	グループホーム さわふじ
所在地	〒903-0124 沖縄県中頭郡西原町呉屋73番地1 (電 話) 098-946-6188

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年5月27日

【情報提供票より】(H20年4月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 19年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤	人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1 階建ての 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費15,000 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 300 円	昼食 400 円	
	夕食 400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100円		

(4) 利用者の概要(4月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1		名	要介護2	3 名	
要介護3	4 名		要介護4	2 名	
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 87 歳	最低 75 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ハートライフ、あいわクリニック、アドベンチストメディカルセンター(歯科)
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームさわふじは県道より少し中に入った閑静な住宅街にある開所一年目、西原町で初めてのグループホームである。開所当初から、地域との交流を重視して自治会加入をすると同時に、自治会行事にも積極的にかかわっている。職員は利用者の願いや思いに添うよう、理念を中心に介護を行い、利用者は穏やかに過ごされている。又、利用者と家族、職員の関係が良好に図られ、日常の面会が多くみられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目: 外部4)
		平成19年3月1日開設のため、初回調査はなし。
		今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 外部4)
		開設後1年で初めての外部評価受審となるため、評価の意義と理解を促すため、3グループに分かれそれぞれで評価をし、その後全体のすり合わせをおこなっている。今後は評価を生かし、改善を図っていきたい。
重点項目	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 外部4, 5, 6)
		開設時から定期的に開催されており、これまでに7回実施されている。メンバーの参加も良く、協力的である。双方向からの活発な議論がなされ、啓発活動や、個人情報保護、誕生会のあり方、安全対策、月間の献立等の提案された事項について、早速改善に努めている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 外部7, 8)
		意見箱を玄関脇に設置している。家族会を開催しているが、自主的な活動とまではいかないため、意見、要望等は職員が声掛けして聞いている。出された要望等はミーティングで報告している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目: 外部3)
		自治会へ加入し、会員として活動に積極的に参加している。また、ご近所の方々を招待して庭でバーベキューを行うなどホームへの理解を深めてもらい、気軽に行き来できる雰囲気醸成をはかっている。また、地域で月2回開催されている「いいあんべ事業」の健康チェックに管理者が参加するなど地域との交流を深めている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分が受けた望ましい介護」について、全職員で話し合い、「願いや思いが受けとめられ、叶えられることを大切にしたい」という、共通した認識の下で、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念については、事務室や玄関に掲示し、タイムカードを押すときに自然に目に入るよう工夫されている。また、月1回の全体会や毎日の申し送り時、日頃のかかわりの中でもその都度、再確認をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会へ加入し、会員として活動に積極的に参加している。また、ご近所の方々を招待して庭でバーベキューを行うなどホームへの理解を深めてもらい、気軽に行き来できる雰囲気の醸成をはかっている。	○	開設1年という短期間で、様々な地域への取り組みを実行しており、今後も継続的に地域と協働できる取り組みに期待したい。また、認知症への理解を深めてもらうために地域の方々を対象にした研修会等を検討することにより、地域との連携が一層深まるよう期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設後1年で初めての外部評価受審となるため、評価の意義と理解を促すため、3グループに分かれそれぞれで評価をし、その後全体のすり合わせをおこなっている。今後は評価を生かし、改善を図っていききたい。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設時から定期的に開催されており、これまでに7回実施されている。メンバーの参加も良く、協力的である。双方向からの活発な議論がなされ、啓発活動や、個人情報保護、誕生会のあり方、安全対策、月間の献立等の提案された事項について、早速改善に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開所時、職員が町の方へパンフレットを持参したり、入居報告等を出かけている。町の担当者の、開所式や行事等への参加もある。運営推進委員のメンバーを窓口にして、気軽に相談に行けるよう、今後、関係を深めていきたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	当ホームには毎日利用者の家族が訪れている。その機会を利用して報告等を行い、また毎月の「たより」や家族会でも利用者の出来事や近況等を報告している。ホームの玄関脇には、行事や様々な場面のスナップ写真等を置き、希望する家族には自由に持ち帰りさせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関脇に設置している。家族会を開催しているが、自主的な活動とまではいかないため、意見、要望等は職員が声掛けして聞いている。出された要望等はミーティングで報告している。	○	家族会の充実を図り、さらに利用者、家族へのアンケート調査を行ったり、意見を交わしあえる関係性等によって、今後も継続的に取組まれることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、前もって利用者へ話し、また、異動等で配置予定の職員もなるべくホームに顔を出して利用者と顔なじみになるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての研修に参加しているが事業所独自の研修計画はない。業務を通しての教育訓練は定例会や申し送り等機会あるごとに行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会に加盟し、管理者は2ヶ月に1回参加し、情報交換を行っている。職員も勉強会に参加したり、母体法人、フレンドリー愛和との交流等を持ち、資質向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談の際、本人が安心、納得して利用できる様、本人をよく知る関係者、職員間で相談、雰囲気づくりをしている。利用前には本人、家族へホームの見学をして貰い、他の入居者や職員とのコミュニケーションを図りながら利用につなげている。体験宿泊も可能だが、これまではスムーズに入所となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームを利用している方々の経歴を十分に把握し、郷土の行事や料理、農作物の作り方等、利用者から学んでいる。趣味や特技の裁縫を依頼したり、本人の出来ること、出来ないことを確認し、日々の生活の中で役割を持って支え合う関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方は今、何がしたいかを日々のかかわりの中で声掛けし、把握できるよう努めている。意思疎通が難しい方の場合には本人の表情から推し量ったり、また家族が面会に来た時などに家族から聞き取りをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の入居時のアセスメント、ケース記録、管理日誌を基にサービス担当者会議で検討し、利用者の状況を確認しながらケアプランを作成している。本人、家族等、関係者で話し合いながら意向を聞き取り、計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月に1回、介護計画の見直しを行っている。入退院や、疾病等による本人の心身の状態変化や、家族の要望があれば関係者で検討し、現状に添った介護計画を策定している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	開所後1年のため、通所介護やショートステイは実施していない。しかし、母体が運営しているデイサービスに友人が通っているのでは会いたいというときは一緒に出かけ本人の思いを遂げさせている。また、母体が運営する他のグループホームや小規模多機能等と交流を図ることで日常生活の活性化につなげている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望により、それぞれのかかりつけ医に定期受診している。状態変化や家族対応困難時には、職員が付き添い対応している。歯科については、訪問歯科を導入しているが、以前からの歯科受診を希望した場合、希望通りに可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応については、口頭での説明をしているが同意書を取るまではいたっていない。	○	高齢化や疾病等による重度化に備え、今後も検討の上、体制の整備や方針等の確立に向けた努力を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	玄関にプライバシー保護に関する方針を掲示している。また、個人情報を提供する場合の提供先を具体的に列記し、本人、家族へ周知している。管理日誌や記録等については、事務所内で管理している。又、一人一人のプライバシーや誇りを損ねないように気をつけながら、その人にあった言葉かけや対応を心がけている		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の希望や家族からの要望等も参考にその人らしい生活ができるよう体調等に考慮しながら利用者に添いながら支援をしている。外出が好きな利用者は、毎日、母体施設へゴミの搬送があるので、一緒に30分ぐらい出かけるのを日課としている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、味付け、盛りつけ、配膳、下膳など、一人一人の経験や能力が活かされ、一緒に楽しみながら行っている。又、季節や行事に合わせた献立も取り入れられている。月1回は町内のレストラン等をまわる外食会を実施し、それぞれ好物の料理を注文している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に週3回となっているが、時間については本人の希望時間で対応している。また、希望であれば毎日入浴もできる。同性介助を基本としている。入浴に抵抗のある方に対しても尊重しながら入浴に貰うよう工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞を読むのが好きな利用者には一緒に寄り添い、記事の話題について話合う。おしゃべりが好きな利用者とは一緒に本人の楽しみを引き出していく等、喜びがある生活支援をしている。また、ムーチャー作りや外食会など季節ごとの行事や戸外での楽しみも支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	母体施設へ出かけたり、利用者の自宅や畑を見に出かけたりして外出支援をしている。また、外出が苦手な利用者には、ウッドデッキに出て外の空気を感ずることにより季節感を体感してもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	最初からセンサーに頼らず鍵をかけないよう見守りを行っている。最近、安全上玄関にインテリア風鈴を取り付けている。居室の一室は転倒予防のため、本人と話し合い気にならないよう独自に工夫し、センサーを取り付けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人主催の避難訓練に年2回職員が参加している。建物は水害対策として近くの川より高く盛り土をしたり、オール電化などにしているが、ホーム独自の訓練はまだ実施されていない。	○	火災通報体制のマニュアルの整備を含め、事業所独自の防災訓練を定期的実施することを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量を記録している。献立は事業所で作成している。母体の栄養士に栄養バランス等のチェックをお願いしている。水分はリビング中央に水、お茶をおいて自由に飲んでもらっている。尿の色をみて水分補給したりしている。月1回体重測定をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると開放的な居間があり、明るい採光と風が取り入れられている。キッチン、リビングを中心に居室が四方にあり、お互いの動きとプライベート面のつながりが良くできている。リビングからのウッドデッキなど、外部の景色を眺めながら団らんで、畳の間や椅子等、1人になれる空間が確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の選んだ花の絵や民芸調の表札があるが、氏名はプライバシーに配慮して全員表記されていない。男性は入り口手前側、女性は真ん中と奥の配置になっている。それぞれベッドやたんす、寝具など持ち込まれ、衣類などや生活用品が整然と表に出ていて、個性に満ちた部屋になっている。		